２０１１年7月２５日

ふれあい散歩道－２
明治大学生田キャンパス内「旧日本陸軍登戸研究所」の

戦争遺跡から見えるもの・・そして川崎市伝統工芸館（藍染め体験可）～

日本民家園～岡本太郎美術館・生田緑地ばら苑を散策してみませんか？

（設立の目的）

登戸研究所（正式名称：第九陸軍技術研究所）は、戦争には必ず存在する「秘密線」（防諜・諜報・宣伝）という側面を担っていた研究所です。そのため、その活動は、戦争で隠された裏面を示しています。

登戸研究所の研究内容やそこで開発された兵器・資料などは、時には人道上あるいは国際法規上、大きな問題を有するものも含まれています。しかし、私たちはこうした戦争の暗部ともいえる部分を直視し、戦争の本質や戦前の日本軍がおこなってきた諸活動の一端を、冷静に後生にかたり継いでいく必要があります。

私たちは、旧登戸研究所の研究施設であったこの建物を保存・活用して「明治大学平和教育登戸研究所資料館」を設立し、この研究所が行ったことがらを記録にとどめ、大学として歴史教育・平和教育・化学教育の発信地とするとともに、地域社会との連繋の場として」いくことを目指します。

（2010年３月：明治大学登戸研究所資料館資料より）

旧登戸研究所の石碑木造校舎

（当時偽札工場だった）

木造校舎（当時偽札工場だった）

弾薬庫

弥心神社

現在の登戸研究所入口

元研究員川津敬介さん（88）は「日本の戦時中の実態を若い世代に伝えてほしい」と次のように朝日新聞の取材に応じてくれました。

① 「偽札」に携わった経緯は東京府立工芸学校（現都立工芸高校）の「製版印刷科」で印刷技術を学んだのがきっかけです。陸軍から「印刷技術に秀でた若者が欲しい」と言われ当時は新宿・百人町あった「陸軍化学研究所」に17歳で入りました。中国の偽札やソ連の偽パスポートを造るだけでなく、進軍先の東南アジアで、日本寄りの新政府が樹立されたと時に使うための紙幣の研究も行っていました。学校の美術の先生を呼び、アンコールワットの図柄などを描いてもらったりしていたんです。

②研究所での生活は

1939年に研究所が登戸に移り、「第三科」（偽札製造）に配属されました。所内では秘密保持が徹底され、「第一科」（風船爆弾）や「第二科」（生物兵器）が何を研究しているのか、当時はまったくわかりませんでした。一方、研究員の待遇は非常に恵まれていて、勤務と同時に大学に通うことが認められていました。私は日大の夜学に通い、教員免許を取得しました。軍の研究所でしたので、給料も良く、物資もあふれていました。

③偽札づくりの実態は

「当初は失敗の連続でした。紙幣は極めて精密にできているので、インキがうまくのらなかたり、図柄が少しでもぼやけたりすると、すぐに偽札だとばれてしまう。試行錯誤の結果、40年頃にはすぐには偽物だとわからないような偽札をつくれるようになりました。偽札作戦は「杉工作」と呼ばれ、中国では「松機関」という秘密結社が担当していました。

④戦後、研究所は

1945年4月、第三科は空襲を逃れて研究所ごと福井県に疎開しました。現地の製紙工場を借り上げましたが、機器の搬入がうまくいかず、そのまま敗戦を迎えました。第三科の研究員はその後、印刷機を払い下げてもらい、名古屋市内で印刷会社を立ち上げました。私もしばらく携わり、宝くじなどを刷っていたのですが、やはり「武士の商法」で経営が行き詰まったため私は栃木県小山の中学校の英語教員になりました。偽札造りについては周囲に話したことがなく、知っている人もほとんどいません。戦後年１回は元研究員たちが登戸で集まっていましたが、約１０年前からはそれも途絶えました。かつての研究所の建物がなくなることに感慨はありません。時代の流れだと思っています。

（２０１１年２月２２日発行朝日新聞第２神奈川版より引用）

（注）このシリーズに使用された写真は転載不可）

・アクセス：小田急線向ヶ丘遊園駅北口小田急バス明大正門前行きで終点で下車。

・利用案内：開館時間：水曜日～土曜日　午前10時～午後4時・　入場料　　無料。

・お問い合わせ先：214－8571　川崎市多摩区東三田1－1－1　明治大学生田キャンパス

（ＴＥＬ：０４４－９３６－４７９９６

以上

2，川崎市伝統工芸館

川崎伝統工芸館風景

川崎伝統工芸館風景

川崎市伝統工芸館では、初心者の方に正藍染めを楽しく体験していただくために、皆さんのお越しをお待ちしております。染色に当たっては、常時、当館の職員が懇切ていねい指導いたします。

すぐに体験できるハンカチ染め（600円）、初級講習会（申込み制）等行っています。

のれん、ハンカチ等の販売も行っています。

・（伝統工芸館のご案内）アクセス：小田急線「向ヶ丘遊園駅」南口下車　徒歩20分

北口から小田急バス「専修大学前」行き終点下車徒歩5分

・利用案内：開館時間：午前9時30分～午後4時30分まで・　入場料　　無料

・所在地・お問い合わせ先：214－0032　川崎市多摩区枡形7－1－3　生田緑地内

（ｔｅｌ）０４４－900－1101（川崎市発行資料より）

3，日本民家園

東日本の代表的な古民家をはじめ、水車小屋や船頭小屋など25軒の文化財建造物を丘陵地に配した野外博物館。園内では民家に関する展示、ボランティアによる火焚き、民具製作実演等を行っています。

（料金）一般500円・大高生300円・65歳以上（川崎市在住の方無料）300円・中小学生以下無料・20名以上（有料）の2割引。（注）予めご連絡下さい。

（ｔｅｌ）０４４－922－2181（川崎市発行資料より）

信越の村（白川の郷）：山下家

長野県：水車

茅葺き屋根の葺き替え

日本民家園内にある道祖神

4，岡本太郎美術館

川崎市ゆかりの芸術家岡本太郎氏から寄贈された美術作品と資料による常設展、新しい芸術の可能性を探る多彩なテーマによる企画展、自由な発想で現代作品と出会えるＴＡＲＯ賞展、各種イベントなどをお楽しみ下さい。

情報コーナーで太郎、父一平、母かの子をくわしく知ることが出来ます。

（料金）一般 500 円・大高生 300 円・65 歳以上（川崎市在住の方無料）300 円・中小学生以下無料・20 名以上（有料）の 2 割引。（注）予めご連絡下さい。

（ｔｅｌ）０４４－900－9898（川崎市発行資料より）

岡本太郎美術館正面

岡本太郎作「樹霊」

岡本太郎作「母の塔」

岡本太郎作「天に舞う」

５，生田緑地ばら苑（2015 年 5 月 14 日～31 日）

生田緑地ばら苑は、小田急向ヶ丘遊園の閉園に伴い、園内に整備されたばら苑を、存続を求める多くの市民の声に応え、2002 年に川崎市が引き継いだものです。生田緑地の中に位置する本ばら苑は、周囲を多摩丘陵の樹林地に囲まれ、360 度の緑のパノラマと清涼な空気が体感できる「秘密の花園」として親しまれ、バラの開花時に遭わせ、春と秋の年 2 回開苑しております。本ばら苑の歴史は古く、開苑は 1958 年にさかのぼり、当時は「東洋一のばら苑」と賞されました。

苑内にはバラ文化の豊かさを示す代表的な四季咲き大輪種〔ＨＴ・フロリパンダ〕や四季咲き中輪種（ＦＬ・フロハンダ）やつバラ（ＣＬ・クライミングローズ）、四季咲き小輪種（ｍｉｎ・ミニチュア）などが植栽されております。2008 年、ばら苑開苑 50 周年を迎え、新たにイングリッシュコーナーを整備しました。〔生田緑地ばら苑より引用〕